

令和6年度 松阪市こども誰でも通園制度 試行的実施の結果について

こども[★]④[★]でも通園制度

松阪市 健康福祉部 こども局 こども未来課

1. 国の動向

こどもみんなが
こども家庭庁

こども誰でも通園制度について

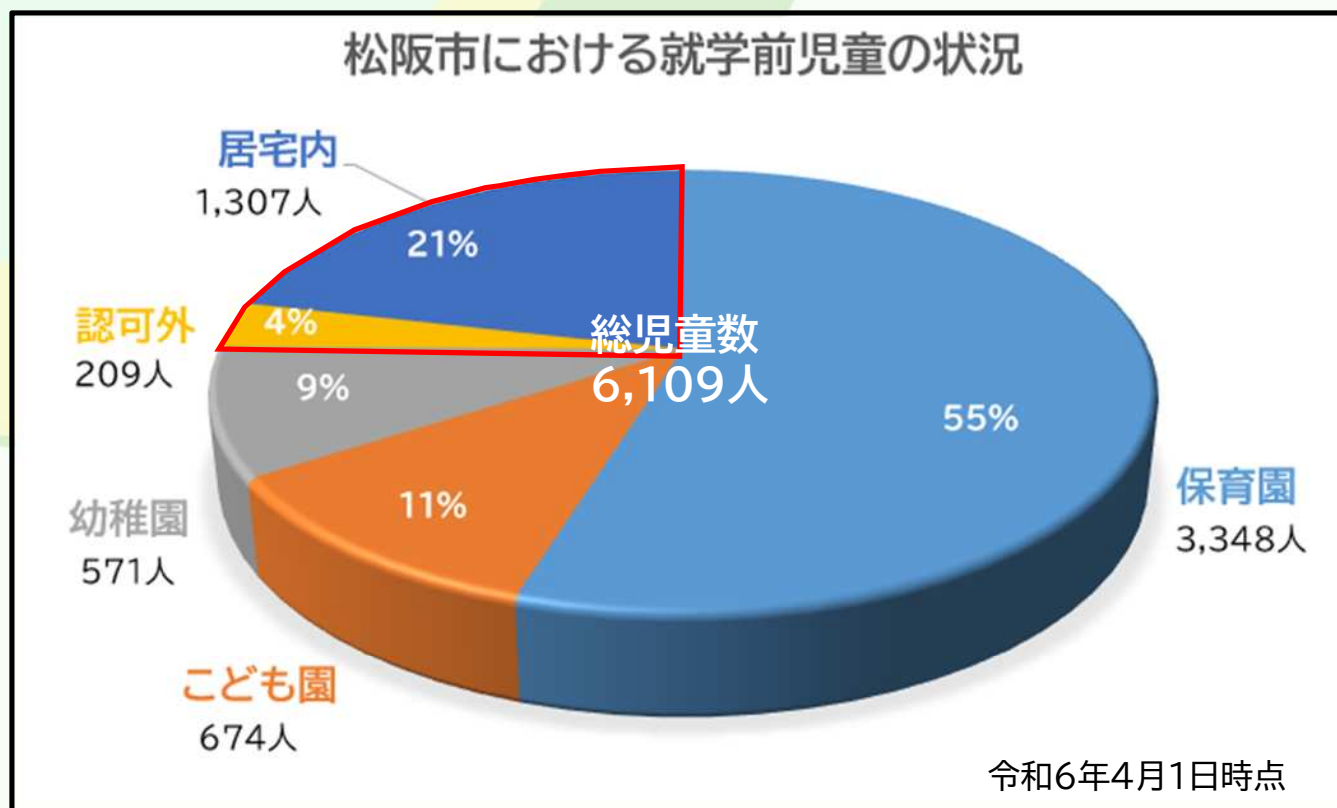
- 令和6年6月に成立した子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律により、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付として、こども誰でも通園制度を創設。【R7.4.1 制度化、R8.4.1 給付化】



【本格実施に向けたスケジュール】

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○ 制度の本格実施を見据えた試行的事業 ・118自治体に内示（令和6年8月30日現在） ※年末までに令和7年度の事業内容（人員・設備の基準等）の方針について決定。	○ 法律上制度化（地域子ども・子育て支援事業） ・自治体の判断において実施 ※年末までに令和8年度の事業内容（給付の詳細等）の方針について決定。	○ 法律に基づく新たな給付制度 ・全自治体で実施

2. 松阪市における就学前児童の状況①



令和6年4月1日時点の0歳から5歳の就学前児童数は6,109人

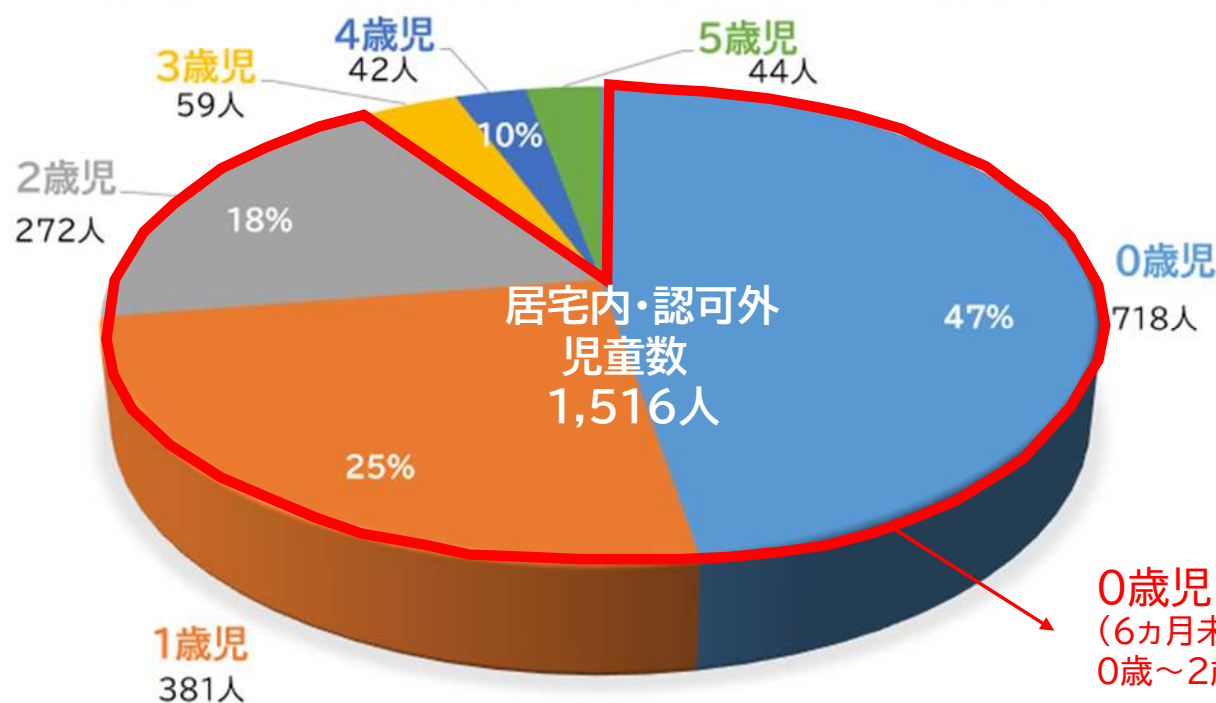
そのうち保育園に通っているこどもがいちばん多く3,348人で全体の約55%を占める。

保育園などに通っていない居宅内児童数は1,307人で全体の約21%

認可外施設に通っているこども209人を含めると1,516人で、全体の約1/4を占める。

2. 松阪市における就学前児童の状況②

居宅内および認可外施設に通園するこどもの年齢内訳



居宅内・認可外施設で過ごすこどもの数は1,516人

0歳児が最も多く718人(約47%)
1歳児が381人(約25%)
2歳児272人(約18%)

0歳児と1歳児で約77%を占める
0歳児から2歳児で約90%を占める

0歳児～2歳児 1,371人
(6ヵ月未満児を含む)
0歳～2歳の全児童数の49%にあたる

→こども誰でも通園制度の対象児童数

3. 試行的事業の概要

施設名	三雲北こども園 こども誰でも通園ルーム
種別	一般型 専用室独立実施
開所時間	9：00～15：00（祝日、年末年始を除く）
利用料	1時間当たり300円 ※生活保護世帯、世帯状況により減額あり
利用定員	1時間当たり3人
利用限度	月10時間を上限
給食等	給食・おやつを提供はなし ※弁当・おやつは必要に応じて持参 水分は必ず持参



4. 利用状況①（令和6年度実績）

利用児童数	0歳	1歳	2歳	合計
登録児童数	52人	45人	17人	114人
実利用児童数	30人	27人	11人	68人
延べ利用児童数	218人	289人	94人	601人
（利用時間総数）	（617時間）	（933時間）	（303時間）	（1,853時間）

- 登録児童数は114人で、利用対象者数の約8%に相当する。(114人/1,371人)

- 年齢別の登録児童数の割合は次のとおり。

0歳児:46%

1歳児:39%

2歳児:15%

登録は0歳児が最も多く、0歳児と1歳児を合わせると全体の約85%を占める。

- 実利用児童数は68人で、登録児童の約60%が利用した。(68人/114人)

- 年齢別の実利用児童数の割合は次のとおり。

0歳児:44%

1歳児:40%

2歳児:16%

実利用は0歳児が最も多く、0歳児と1歳児を合わせると全体の8割を超えている。

4. 利用状況②（令和6年度実績）

利用児童数	0歳	1歳	2歳	合計
登録児童数	52人	45人	17人	114人
実利用児童数	30人	27人	11人	68人
延べ利用児童数	218人	289人	94人	601人
(利用時間総数)	(617時間)	(933時間)	(303時間)	(1,853時間)

- 延べ利用児童数は601人で、実利用者数からみた1人あたりの利用回数は約8.8回となった。
(601人/68人)
- 年齢別の延べ利用児童数の割合は次のとおり。
 0歳児:36%
 1歳児:48%
 2歳児:16%

延べ利用児童数は1歳児が最も多く、1歳児だけで約5割を占めている。
- 利用時間総数は1,853時間で、1回あたりの平均利用時間は約3時間となった。(1,853時間/601人)
- 年齢別の利用時間総数の割合は次のとおり。
 0歳児:33%
 1歳児:50%
 2歳児:17%

利用時間総数は1歳児が最も多く、1歳児だけで5割を占めている。

4. 利用状況③（令和6年度実績）

1回あたりの平均利用時間	計
0～2時間未満	24人
2～4時間未満	352人
4～6時間未満	144人
6～8時間未満	9人
8時間以上	0人

※7月利用実績を含まず

1回あたりの平均利用時間は「2～4時間未満」が67%であった。

次に多かったのが「4～6時間未満」で27%であった。

月上限10時間を利用した児童は89人で、1歳児が約45%を占めた。

月上限10時間を利用した児童数

年齢	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	0	1	5	3	4	5	4	4	6	27
1歳	2	2	2	8	8	7	7	4	7	40
2歳	3	3	3	4	3	3	3	1	2	22
計	5	6	10	15	15	15	14	9	15	89

人

4. 利用状況④（令和6年度実績）

月別集計

延べ利用
児童数

年齢	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	13	6	16	17	24	28	33	37	44	218
1歳	18	21	26	37	33	35	37	42	40	289
2歳	15	14	12	12	10	12	8	5	6	94
計	46	41	54	66	67	75	78	84	90	601

実利用
児童数

年齢	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	6	3	6	10	13	13	12	15	20	30
1歳	12	12	15	19	16	15	15	19	15	27
2歳	9	6	5	4	3	5	3	2	2	11
計	27	21	26	33	32	33	30	36	37	68

利用時間
総数

年齢	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	30	17	53	59	81	75	89	90	123	617
1歳	64	69	86	126	113	107	112	138	118	933
2歳	40	50	37	40	30	42	30	14	20	303
計	134	136	176	225	224	224	231	242	261	1,853

開始した7月、8月頃は利用が低調であったが、月が進むにつれて利用児童数、利用時間数が増えた。
制度の周知が進んだこと、また利用を重ねて園に慣れたこどもが定期的に利用するようになったことが考えられる。

5. アンケート調査結果①

実施期間:令和6年9月12日(木)～令和6年9月30日(月)

調査方法:登録フォームから保護者にメールでアンケートを依頼

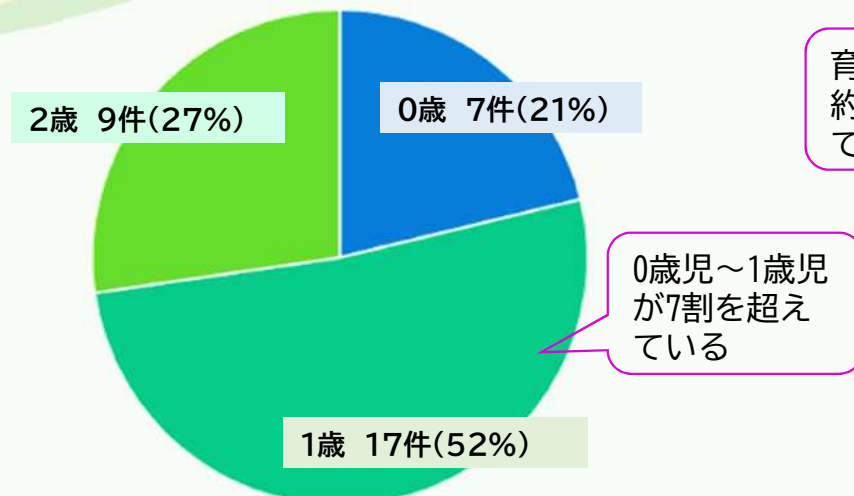
対 象 者:こども誰でも通園試行的事業に事前登録フォームから申請をされた方

0歳児:24人 1歳児:36人 2歳児:21人 計81人

ロゴフォームのアンケート機能を活用

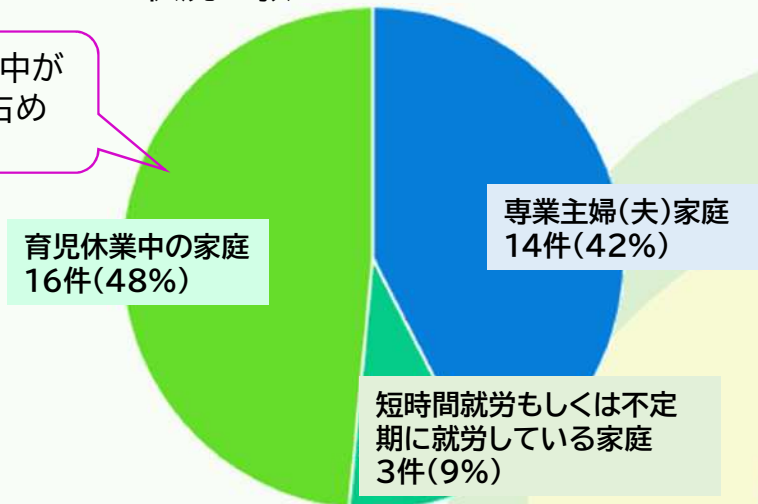
回答者数:33件(回答率41%)

Q1.お子様の令和6年4月1日時点での
年齢を教えてください



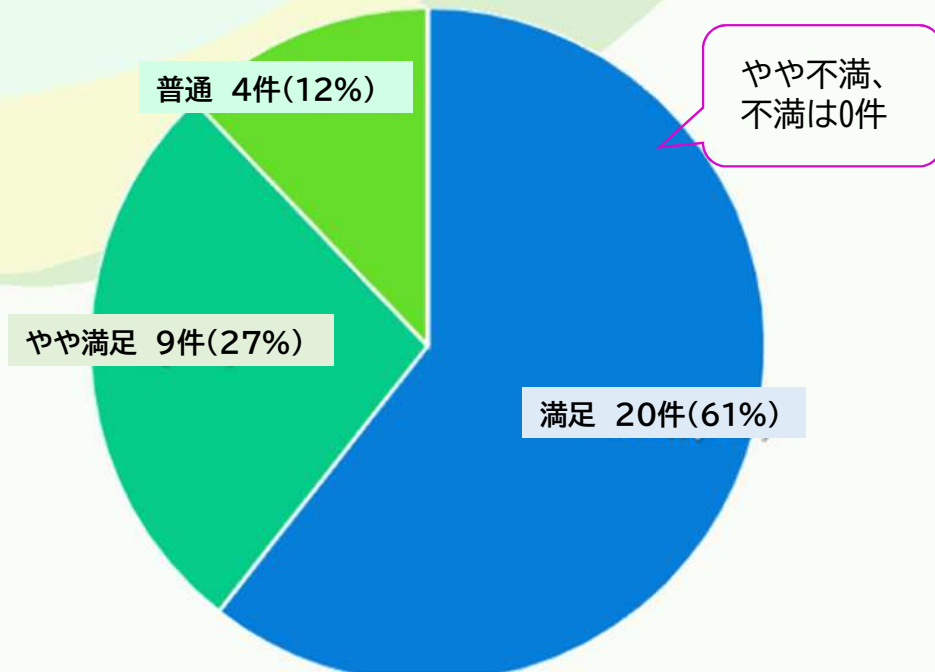
Q2.利用した時の保護者(父母のどちらか)の
状況を教えてください

育児休業中が
約5割を占め
ている

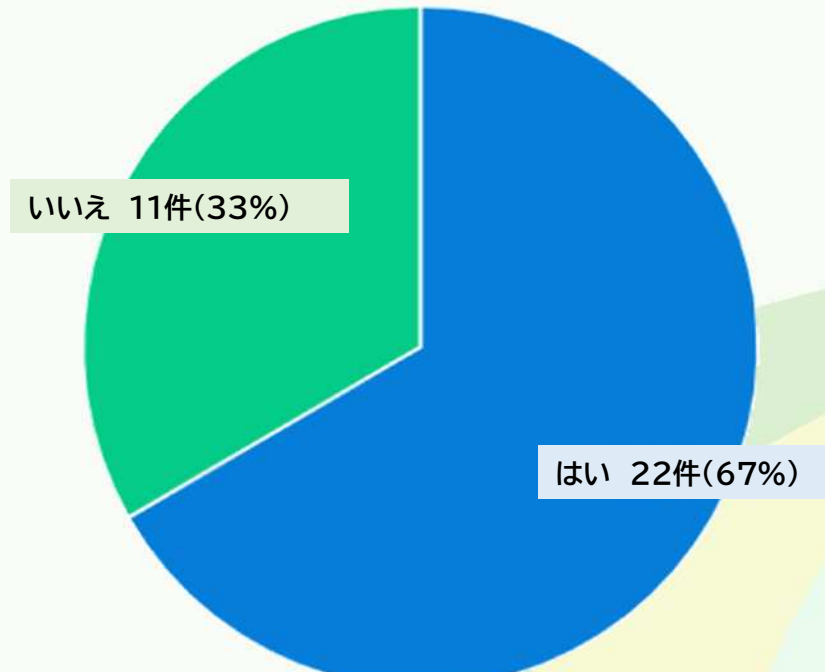


5. アンケート調査結果②

Q3.オンライン申請を含む手続きについての満足度を教えてください。



Q4.こども誰でも通園を利用しましたか。



5. アンケート調査結果③

Q4-1.利用した理由を教えてください。
(複数回答可)



- ・通院のため4件
- ・上のこどもと過ごす時間を確保するため1件

レスパイトを目的とした理由が多かった一方で、こどもが家庭以外と関わりを持つことを目的とした利用も多かった。

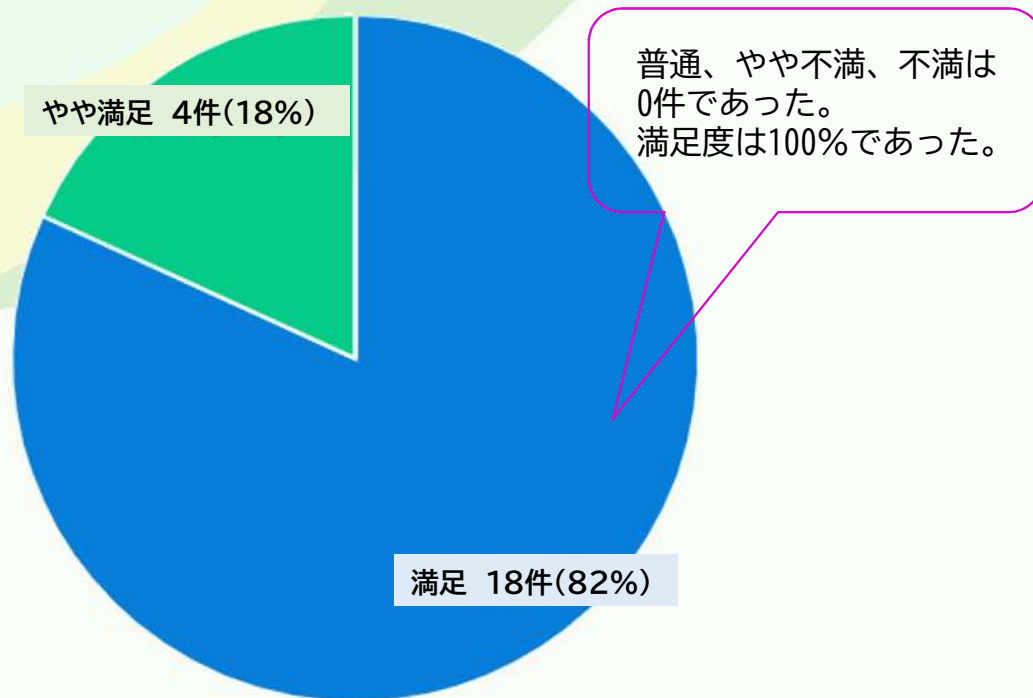
Q4-2.利用していない理由を教えてください。
(自由記述)

- ・これから利用予定のため
- ・家から距離があるため
- ・子供を預けたことがないため少し抵抗がある
- ・預けることに罪悪感があるため
- ・登録はしたがまだ利用したい用事が入っていないため
- ・病院に通う予定だったが通わなくてよくなったため
- ・災害があったときの避難が心配のため
- ・登録・申請したばかりのため
- ・8月で3歳になり、引き続き利用したかったが、利用できなくなり残念
- ・まだ6ヶ月に満たないため

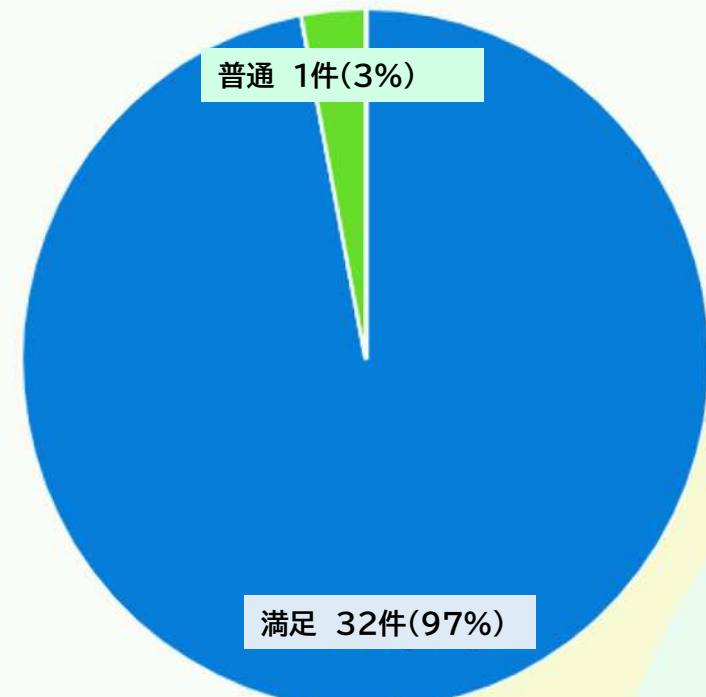
これから利用予定の人が多かったが「預けることに罪悪感がある」という声もあった。
また、実施園が近くにないことも利用していない理由となっている。

5. アンケート調査結果④

Q5. こども誰でも通園を利用した満足度を教えてください。

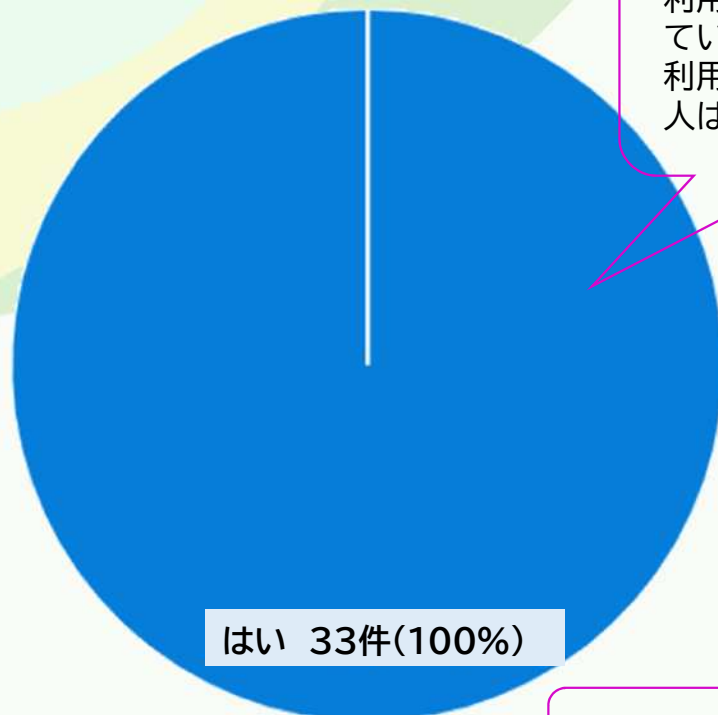


Q6. 面談時や送り迎え時の保育士対応の満足度を教えてください。



5. アンケート調査結果⑤

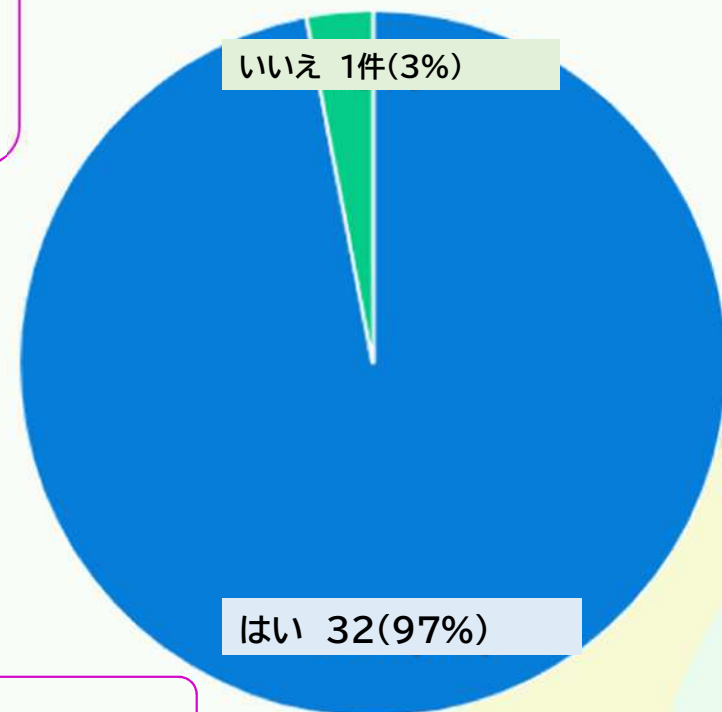
Q7. 今後もこども誰でも通園の利用を希望しますか。



利用した人も、利用していない人も「今後も利用したい」と答えた人は100%であった。

こども誰でも通園のニーズは高いと思われる

Q8. 他の施設でも「誰でも通園」があったらよいと思いますか。



5. アンケート調査結果⑥

利用者の声（自由記述） 良い意見

娘は初日からとても楽しく通園させてもらっています。充分すぎる手厚い保育に大満足です。

同年代の子と関わる機会が増えて良かったです。

現在体調が悪く、通院したり家で休養したい日が多いので本当に助かっています。先生たちは皆さん優しくわが子も楽しそうに遊んでもらった様子でとてもいい刺激になっていると思います。

行く度に成長が感じられて良いです。お迎え時に子育てについて保育士さんとお話出来ることも個人的に嬉しい。

家族に預けるより安心でき、預かって貰ってる間リフレッシュ出来てます。のびのびと遊べているようで、良かったです。

先生からみた我が子の様子が聞けてよかった。

帰り際、また来てねと言ってもらえるのがとても嬉しかった。用事があるから「仕方なく」預ける時ばかりでなくてもいいんだと思えて、気持ち楽になった。

未就園児にはプレ入園のようで来年に向けての心の準備としても嬉しいです。母親自身の病院や、美容院といった普段なかなか気兼ねなく行けないところへ行く時間をもらえるのにありがたいです。

5. アンケート調査結果⑦

利用者の声（自由記述） 今後の課題となる意見

預け先の先生を、どんな先生か知れる感じだと嬉しい。（知らない先生に預けるのが怖い）

登録はオンライン申請が可能なのに、予約するときは電話予約なのが、ネット予約できるようにになると更に嬉しいです。

市内中心部に利用できる施設があれば、利用しやすいと思います。

支援センターの先生に預かって欲しい。（普段からお世話になっており、こどもも慣れているから）

3歳になると園に通ってなくても利用できないのが、理解できません。

今は利用できる人数と場所が限られているので、複数の箇所で、利用できる人数の枠ももう少し増えると使いやすくなる人が増えるのではないかなと思います。

持ち物が少し手間になるので利用するのに少し躊躇します。もう少し身軽に預けれると嬉しいです。



6. 保育従事者の意見①

1. こどもとのかかわり方で配慮・苦慮した点

0歳児

1、2歳児と同じ空間で過ごす中で、安全に過ごせるよう空間の確保をするようにしている。日頃、家庭で過ごしている子どもたちなので母乳の子もあり、ミルクが飲みなれておらず、慣れるまで時間がかかる様子もあった。

また、離乳食に関してもレトルトのパックを持ってくる子が多いが、普段食べているものではないことや、飛び飛びの日程での利用であるため、食べなれず進みにくい様子があり、保護者と相談しながら普段食べ慣れているものなどを用意してもらうなどしている。

1歳児

発達が著しい時期で、面接をした頃から実際利用するまでに、睡眠、活動など発達や生活リズムが日に日に変わっていく。

特に食事は離乳食、普通食と進んでいく中で、アレルギーが出てくるなど状況が変わっていることもあるので、気をつけて様子を聞くようにしている。

また、歩行の始まりや歩き方がまだ不安定な姿もあり目が離せないため、気をつけて見守るようにしている。



6. 保育従事者の意見②

2歳児

活動が活発になってくる年齢であるので、遊びの充実と保障に配慮している。

保育者とののかかわりを大事にしながら、他児とのふれあいや関わりの仲立ちをしたり、安全に気をつけながら見守るようにしている。

全年齢を通じて

普段家庭で過ごしている子どもたちなので、生活リズムや過ごしている環境もさまざまで、ひとりひとりに応じた関わりや家庭的な温かい雰囲気を感じられる配慮が必要であり、安心して過ごせるよう関係づくりを大切にしている。



6. 保育従事者の意見③

2.利用時間で配慮・苦慮した点

短時間利用

利用する日が飛び飛びであるので、登園時の離れ際に泣くことがある。落ち着くまで時間を要することもあり、遊んで過ごせる頃には降園ということもある。

また、使い始めの子が短時間を利用していることが多いので1対1でゆったりと関わることを大事にし、子どものペースを大切にするなどひとりひとりに応じた対応をしている。

長時間利用

昼食やおやつ、午睡、遊びなどをしていくが、一人ひとり生活のリズムが違うので家庭の日頃の状況を聞きながら、その子に応じた無理のない過ごし方をしていけるようにしている。時間が長くなってくると、疲れが出てきたりするので様子に応じながらゆったりと関わることを大切にしている。長時間利用については保護者の思いも受けとめながら相談しあい、始めは子どもに負担がないよう可能な範囲で短時間から慣れていき、時間を延ばしていくようにするなど無理なく進めていけるようにしている。



7. 保育士の配置体制

R6年度

- ・職員体制については、保育士4名をシフト制で配置。
- ・4名の内、1名は正規職員、残りの3名は第3種会計年度任用職員(1日の勤務時間が6時間未満かつ週20時間以内)
- ・保育士4名以外に三雲北こども園副園長兼誰でも通園担当主幹(正規)を指導監督する統括的な役割として1名配置

課題・反省点

統括的な役割で副園長を兼務で配置していたが、こども園との兼務が難しかった。

改善点

令和7年度は、誰でも通園の統括をしながら、保育にも入れる主任保育士（副園長経験有で事務経験を積んでいる）を専任で配置。会計年度任用職員を4名配置したことで、利用定員を4名に増やして実施。

8. 本格実施にむけた取り組み



松阪市では、令和8年度実績目標として実利用者数約200人を目指す。
家庭内で過ごしているこどもの約17%が誰でも通園を通じて家庭以外に関わりを持つ目標で
令和9年度には約20%を目標とする。

時期	取り組み
令和7年2月議会	松阪市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例制定
令和7年5月	令和6年度松阪市こども誰でも通園制度試行的事業の実績報告
令和7年6月末	令和8年度に向けて民間施設を対象に説明会及び意向聴取
令和7年12月	確認条例の制定 児童福祉審議会等への意見聴取 実施施設認可の審査、認可
令和8年2月	総合支援システムの運用開始
令和8年4月	松阪市内3カ所（既実施園＋2カ所）認可施設にて事業開始